

双子葉植物離弁花類バラ科

ホロムイチゴ

青森県：B

環境庁：該当なし



木村啓撮影

木村

草丈10cmほどで雌雄異株のトゲの無い多年草です。花は白色5弁花(4弁花もある)を咲かせます。

寒冷地に生育する種類で、北海道と本州北部の泥炭地に分布しています。県内では、五所川原市の泥炭湿地にわずかに見られるだけです。

生育地の自然環境は保持されているので、株数の減少はありません。しかし、植生遷移が進行中なので将来が心配です。

環境変化が起こらないような対策が望まれます。

双子葉植物離弁花類バラ科

エゾシモツケ

青森県：D

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根市

日当たりの場所に生える落葉低木。葉は楕円形～長楕円形で先だけに鋸歯があるのが特徴です。同じ仲間にマルバシモツケ・エゾノシロバナシモツケ・アイズシモツケなどがあります。

北海道と本州では青森県だけに産する南限の植物です。県内では東通村尻屋の石灰岩地岩塊斜面に確認されているだけです。当面開発は考えられませんが、崩壊などの自然災害・植生の遷移が心配されます。

双子葉植物離弁花類フウロソウ科

チシマフウロ

青森県：D

環境庁：該当なし



根市益三撮影

木村

草丈が30cmほどの多年草で高山帯の草地に生育し、紅紫色の5弁花を咲かせます。

北海道から本州北部の早池峰山まで分布しています。本県では八甲田山系と白神岳で見られますが、近年、津軽半島の山でも発見されました。

津軽半島の生育地は、範囲が狭くて個体数も少なく、生育環境も良好ではありません。

生育地の自然環境を保全し、採取をしない事が望まれます。

双子葉植物離弁花類フウロソウ科

タチフウロ

青森県：C

環境庁：該当なし



根市益三撮影

根市

草地に生える多年草。茎は基部が倒伏してから立ち上がり、葉は幅5～12cmで、掌状に裂けます。花は径2.5～3cmで、花弁に濃紫色の脈があるのが特徴です。同じ仲間にゲンノショウコ・エゾフウロ・ハマフウロ・チシマフウロなどがあります。

本州・四国・九州に分布し、八戸市が北限です。産地は1か所だけで数も少ないので環境変化により消滅するのではないかと心配されます。

双子葉植物離弁花類トウダイグサ科

ノウルシ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

根 市

湿地に生える多年草。苞葉が黄色で目立ち5月の湿原を彩ります。果実の表面に多数の円錐状突起があるのが特徴です。同じ仲間にマルミノウルシ・ナツトウダイ・センダイタイゲキ・タカトウダイなどがあります。傷つけると白乳を出すところから和名がきています。

四国を除き全国に分布し、県内にも広く産します。ヨシ湿原やハンノキ林下にしばしば群生が見られますが、湿原開発により生育地は次第に失われてきています。

双子葉植物離弁花類トウダイグサ科

マルミノウルシ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根 市

林下や草地に生える多年草。高さ40～50cm。別名ベニタイゲキといわれるように、しばしば全体紅色を帯び、葉の中脈の白さが目立ちます。果実は円くて平滑なので同じ仲間のノウルシと見分けられます。

北海道と本州の関東以北に分布し、県内では八戸市の鮫角灯台付近の海岸から内陸部の松館方面にやまれに見られます。落葉広葉樹林のスギ植林地化で減少しています。

双子葉植物離弁花類カエデ科

クロビイタヤ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧ⅠB類



根市益三撮影

根市

山地にまれに見られる落葉高木。葉は掌状で鈍い歯牙があり、両面に毛があります。

北海道と本州の北・中部に分布し、県内では南郷村と碓ヶ関村に産します。生育地は山地の流れに近いあたりで、開田・伐採の繰り返し・植林などにより減少し、今ではまれにしか見られなくなりました。同じような環境に生育し同じ運命をたどっている植物にハナヒョウタンボク（階上岳に記録され、青森県：A、環境庁：絶滅危惧ⅠB類）があります。

双子葉植物離弁花類スミレ科

キバナノコマノツメ

青森県：B

環境庁：該当なし



工藤盛三撮影

原子

高山のやや湿った草地に生える多年草。高さ10～25cm。葉はやわらかく幅2～4cmで、馬のひづめ形をしているところから和名がきています。花が黄色のスミレではほかにオオバキスミレがやや普通に見られます。また本県の黄色いスミレで本種のような葉を持つものは他にありません。

北海道・本州（北・中部）・四国・屋久島に産し、分布の広い種類ですが、県内では南八甲田乗鞍岳・横岳など産地が限られています。

双子葉植物離弁花類スミレ科
オオバタチツボスミレ



根市益三撮影

青森県：B
環境庁：絶滅危惧II類

湿った草地に生える多年草。野生のスミレ中では最も大きく、茎は高さ20~40cm。花も大きくて側弁には毛があります。似ているオオタチツボスミレの側弁は無毛なので見分けられます。

北海道・本州（北・中部）に分布する亜高山の植物です。県内では、八甲田山の田代平や低地の中里町に産します。田代平では群生も見られますが、周辺の牧草地化や行楽地による生育地の富栄養化が心配されます。

原 子

双子葉植物離弁花類アカバナ科
ヒメアカバナ



木村啓撮影

青森県：C
環境庁：該当なし

岩木山一帯の砂礫^{されき}地に生える多年草です。茎の高さは5~15cm、葉は線形で長さ1~2cm、幅1~4mmです。花期は7~9月。柱頭は棍棒状で、子房に白色の屈毛があります。

小型で目立たないので、岩木山では盗掘の対象にはされていません。

北海道・本州（主に中部地方以北）・北海道に分布します。

小型なアカバナは本種のほかに、八甲田山に分布するアシボソアカバナがあります。

原 子

双子葉植物離弁花類アリノトウグサ科

夕チモ

青森県：C

環境庁：準絶滅危惧



木村啓撮影

原子

池沼や湿地に生える多年草。茎は水中にあるもので50cm位に伸びますが、湿地生のは5~15cmです。葉は3~4枚輪生し、羽状に深裂します。花は6~8月に咲きます。

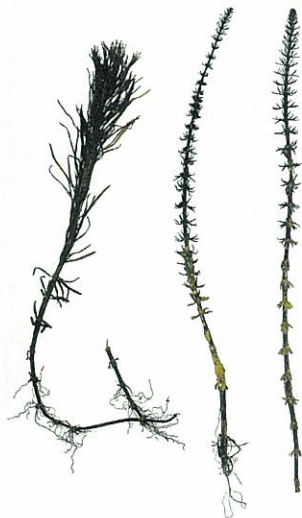
全国的に分布し、県内では全域に産しますが、生育環境によって大きさに変化があり、小形のは見逃されているようです。時に湿地に群生したりします。開発や水の汚れで減少が進んでいます。

双子葉植物離弁花類スギナモ科

スギナモ

青森県：A

環境庁：該当なし



右：花穂、左：水中葉

細井幸兵衛所蔵

原子

清流に生える多年草。茎には、多くの節があり、高さ50cm位になります。葉は1節に6~12輪生し、線形をしており、長さ2~6cm、幅2~3mmで鋸歯がありません。花期は7~8月です。

北海道・本州（中部以北）に分布します。現在では、県内の産地は八甲田山のぐだり沼だけになってしまいました。

かつては青森市の清流中にもありましたが、住宅が建って生活排水が流れ込み、絶滅してしまいました。

双子葉植物合弁花類ツツジ科

チシマツガザクラ

青森県：B

環境庁絶滅危惧II類



細井幸兵衛所蔵

細井

千島列島、カムチャッカ、オホーツクのほか北海道・本州に分布します。北海道の高山には広く見られますが、本州では八甲田山、早池峰山、白馬岳のみが記録されています。八甲田山では流紋岩類の硬い岩隙にのみ生えていて、最も普通な安山岩類には見られません。南八甲田の通称ガジャボチが唯一の産地で、残雪期に簡単に登れる場所にあるので、盗掘されてしまい貧弱なものしか残っていません。

双子葉植物合弁花類ツツジ科

ナガバツガザクラ

青森県：B

環境庁：該当なし



木村啓撮影

原子

常緑の小低木。ツガザクラ（本県にはありません）より全体がやや大形で、葉は長さ8～12mm。花柄は長さ2.5～3.5cmになります。

北海道・本州（東北地方）の高山に分布し、県内では、岩木山上部岩石地の岩の割れ目に根を下ろしている小群がいくつか見られます。しかし数が多いわけではありませんので、充分保護していく必要があります。

双子葉植物合弁花類サクラソウ科

ミチノクコザクラ

青森県：B

環境庁：絶滅危惧II類



木村啓撮影

草丈15cmほどの多年草です。根際から4~7枚の葉を出し、その中心部から花茎を直立させ、先端部に紅紫色花を1~6個つけます。

ハクサンコザクラに似ていますが、全体が大きく、花も多くつけます。

岩木山と秋田県田代岳だけに生育しており、分布上大変貴重です。

岩木山では谷筋や窪地など、雪渓が残りやすい多湿な環境に群生しています。

山全体の環境保護が望まれます。

木村

双子葉植物合弁花類サクラソウ科

ユキワリソウ

青森県：C

環境庁：該当なし



根市益三撮影

草丈6cmほどの多年草です。葉は根際を集まってつき、その中から花茎をのぼし、先端部に3~6個の淡紅色の花を咲かせます。

本州・四国・九州に分布しています。県内では下北半島の一部に見られます。

岩場など特殊環境に生育し、個体数も限られています。

八甲田山系には変種のユキワリコザクラが見られます。

両種とも生育環境全体の保全が望まれます。

木村

双子葉植物合弁花類サクラソウ科

サクラソウ

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



根市益三撮影

根市

湿地や流れのほとりに生える多年草。同じ仲間
に山地生のクリンソウ・
オオサクラソウがありま
す。

全国に分布し、県内では太平洋側に偏って産します。戦後の開田ブームで湿原が開発され、機械化による馬の需要減で牧野が放置されたため、そこを生育地とする本種も次第に減少してきました。残された生育地も植生が変わって、林となり、流れのほとりにわずかに見られるだけとなっています。

双子葉植物合弁花類サクラソウ科

ハイハマボッサ

青森県：C

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類



木村啓撮影

木村

草丈10cmほどの多年草です。葉は広楕円形で光沢があり互生しています。花は白色で小さく、総状に10~15個つけます。

北海道と本州に分布しています。海岸近くの湿地に生育するとのことですが、本県では山間地にも見られます。

市浦村・金木町・岩木町などの限られた地域の湿った場所に生育していますが、不安定な生育環境です。

生育地自然環境を保全することが望まれます。

双子葉植物合弁花類リンドウ科

ホソバツルリンドウ



根市益三撮影

青森県：B

環境庁：絶滅危惧ⅠB類

山地に普通に見られるツルリンドウに似ていますが、紫色を帯びることはなく、花は4数性で花冠の先は4裂し、果実は蒴果です。ツルリンドウは葉や茎の裏が紫色を帯びることが多く、花は5数性で、果実は液果です。

全国に分布し、県内では全域に産しますが、もともと数の少なかった植物で、今では林縁ややぶなどでまれにしか見出されません。時代の推移による植生の変化が減少要因ですが、それに採取や開発が加わっています。

根市

双子葉植物合弁花類リンドウ科

ムラサキシセンブリ



根市益三撮影

青森県：A

環境庁：絶滅危惧Ⅱ類

草地に生える1年草。花冠の蜜腺溝の毛は青紫色で乳頭状突起があります。よく似ているセンブリは毛が白色で滑らかです。

本州～九州に分布し、県内では八戸市に産し、北限になります。しばらく消息不明で県レッドデータブックで絶滅としましたが、その後造成地の放置されたススキ草地に出現しているのが確認されました。周囲にはまだアカマツ林や雑木林が残っていますが、市街地化は近くまで進んでいます。

根市